

カジノを併設するシンガポールの複合型観光施設

# マリーナベイサンズ・リゾートワールドセントーサ

Marina Bay Sands, Resorts World Sentosa

～シンガポールの観光事情について～

報告者: 島内 研

## 1 概要

- マリーナベイサンズとリゾートワールドセントーサは、カジノをはじめとするエンターテインメント施設、宿泊施設、飲食・物販施設及び会議・展示会施設等を有するシンガポールの複合型観光施設(統合型リゾート)であり、いずれも 2010 年に開業。
- マリーナベイサンズは、アメリカ資本のラスベガス・サンズが開発運営。都心部マリーナベイに位置し、展示会・会議の来訪者や観光客を主なターゲット客層としている。空中庭園やアートサイエンス博物館などのアトラクションがある。2012 年の売上高は 28 億ドル。
- リゾートワールドセントーサは、マレーシア資本のゲンティン・シンガポールが開発運営。南部セントーサ島に位置し、レジャー客やファミリー客が主なターゲット客層である。ユニバーサルスタジオや世界最大の水族館マリーナ・ライフ・パークを併設している。2012 年の売上高は 23 億ドル。

## 2 説明者

マリーナベイサンズ	マネージャー ジェラード 氏 [Manager Mr. Gerard]
リゾートワールドセントーサ	スタッフ ムンクトウヤ 氏 [Staff Ms. Munkhtuya]
同	シニアマネージャー ウィー 氏 [Senior Manager Mr. Wee]

## 3 主な説明内容

### ◇ マリーナベイサンズ

マリーナベイサンズは、シンガポールで最大のホテルで予約はなかなか取れないようになっており、今まで 98%の部屋が埋まっている。日本で、スマップが宣伝するソフトバンクのCMが放送されているので、特に日本人の観光客は増えている。しかし、日本人は夏休みの期間に滞在するケースが多

## マリーナベイサンズ・リゾートワールドセントーサ (シンガポール)

く、長期滞在できるのはバカンスなど休暇制度を持つ欧米人が多い。一泊の値段はスタンダードの部屋が 400 ドルで、スイートルームが 1,700 ドル、特別室は 20,000 ドル。

ホテルの他にショッピングモールにはブランドショップは 300 店入っており、カジノも併設している。(我々は屋上のプールからスカイパークへ案内してもらい、そしてホテルの部屋、カジノと案内して頂いた。残念ながらカジノは写真撮影不可だった。)

外国人はパスポートを見せれば入場でき、シンガポール人は 100 ドルの入場料を払えば入場できるという仕組みになっている。カジノは初期投資 55 億ドルを投じて 2010 年に創業され、5 年以内で投資分の元が取れる予定になっている。このカジノだけで 9000 人の雇用が生まれた。24 時間オープンで、運営会社はマカオ、ラスベガスでもカジノを運営している。スロットやルーレットなど様々なゲームがあるが、その中でもバカラが一番人気である。一般フロアとVIPフロアに分かれており、そのフロアの中でも禁煙フロアと喫煙フロアに分かれている。ディーラーばかりが儲かっていないことを証明するために勝ち率を出している。カジノの職員になるには公務員ではないのだが、シンガポール政府の資格がいる。現在 2000 人ほどがディーラーの資格を持っている。



マーライオンとともに、新たなシンガポール  
観光のシンボルとなったマリーナベイサンズ



マリーナベイサンズの空中庭園

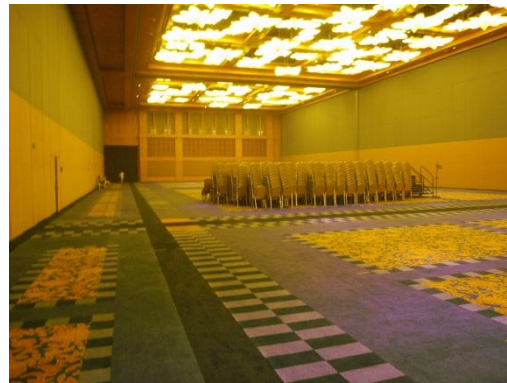
### ◇ リゾートワールドセントーサ

リゾートワールドセントーサは、都心にあるマリーナとは異なり、南部のセントーサ島に 44 億ドルをかけて建設された。元々セントーサ島という埋立地で、50 ヘクタールにもなる広大な土地なので、アトラクションとアトラクションの間をカートで移動する。中には水族館があり、その水族館が見えるようにレストランやホテルの部屋が併設されている。こちらもカジノを持ち、マリーナと同じように自国民が入るには入場料を払う仕組みになっている。また、アジア最大のコンベンションホールがあり、8000 人収容可能である。(2009 年時点でアジア最大の国際会議のできる場所をと言うことで京都国際会館が 5000 人収容のホール建設の調査費を予算に付けている時に、既にそれより大きなホールが建設されていたことになる。)国際会議に使われるだけでなく、結婚式や会社の研修にも使われており、先日インド系の方が 6000 人規模の結婚式を行った。

これら統合型リゾートの全体の年間の売り上げはマリーナ(29 億ドル 2011 年、28 億ドル 2012 年)、セントーサ(25 億ドル 2011 年、23 億ドル 2012 年)となっている。



リゾートワールドセントーサでは、カートで移動



大規模なコンベンションホール

## 4 質 疑

### ○ カジノの入場制限について

→ 外国人はパスポートの提示のみで入場できるが、シンガポール人がカジノに入場するには、1回 100 シンガポールドル又は年会費 2,000 シンガポールドルが必要となっている。国民のギャンブル依存症を防ぐためである。

### ○ ディーラーなどのカジノのスタッフについて

→ ディーラーになるには、国の試験を受けて免許を取得しなければならない。免許制にすることで、カジノ施設の質を向上させることを目指している。また、政府は、シンガポール人のディーラー育成に力を入れている。

## 5 所 感

シンガポール政府観光局でもお話をうかがったが、国家戦略として観光のハブ化を目指している。シンガポール初の統合型リゾート、セントーサとマリーナは2010年に開業された。リークアンユー首相は「カジノは青少年の育成に対して悪影響がある」ということで、2回は許可しなかったようだ。3回目にカジノ色を薄めた統合型リゾートと言うことで許可をしている。例えば、マリーナベイサンズではプールやカジノやショッピングの空間もあるが、世界一の観覧車やF1やスケートやシアター等も併設する。セントーサの方でもカジノだけではなく、水族館やユニバーサルスタジオシンガポールの遊園地も併設している。

感想としては、一見カジノに注目をしがちだが、カジノは本当に一部の一部であり、むしろ他のリゾート施設やアトラクションに注目させられる。

今は下火になっているが、2年くらい前の関西広域連合特別委員会でも統合型リゾートの話が活



マリーナベイサンズ・リゾートワールドセントーサ  
(シンガポール)

発に出ていた。現在は国の方で法制化の動きがあるようだ。税収や雇用の増加、地域経済の活性化が期待できるとされている。確かにそれはあるようだ。しかし、問題点もいくつかあるとされている。自国の青少年への悪影響や依存症対策である。実際カジノのゲートは外国人ゲートとシンガポール人ゲートに分かれているのだが、外国人ゲートからではなくシンガポール国民が 100 ドル払って入るゲートから、より多く入っているのを見ると、一定自国民に対しての敷居を上げる必要はあると思う。ヨーロッパのように自国民の入場を禁止してもいい。また、関西広域連合の特別委員会でも議論があったが、現在は賭博だけが禁止されていないパチンコや宝くじや競輪、競艇、競馬との整理をどうするかという問題もある。今回の視察ではカジノの悪影響の面を認識することができなかったが、それも含めて検証してみる必要があると思う。

現在、シンガポールでは 530 万人の人口に対して、毎年 1400 万人の観光客を受け入れている。カジノの是非を別に考えても、他の魅力的なアトラクションを含む統合型リゾートがシンガポールの観光誘客、経済効果を上げていく新たな仕掛けとなっているのは確かだと思う。



マリーナベイサンズの施設視察の様子



リゾートワールドセントーサの施設視察の様子